

令和3年度

北
広
島

ふるさと夢プロジェクト

事業報告書



令和4年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊

目 次

1.	はじめに	1
2.	令和3年度「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業 全体計画	2
3.	4年生「お宝発見ツアー」	3
4.	5年生「登山体験」	10
5.	6年生「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」	19
6.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って	27
7.	おわりに	32

はじめに

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎えています。

こうした状況を受け、国が「地方創生」を重要政策として人口減少の克服に取り組む中、北広島町では平成 29 年に「第 2 次北広島町長期総合計画」を策定しました。教育部門で「夢と希望、豊かな学び合いにあふれたまちづくり」を掲げ「ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子供・若者・大人の育成」に取り組んでいます。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業では、地域の皆様のご協力をいただきながら、学校間の垣根を越えた同学年が同じ活動や体験をする取組を行っています。こうした取組を通じて、町内には多くの魅力や素敵な大人がたくさんいることを子供たちは感じています。この事業を将来の定住や北広島町を応援する気持ちを持った子供が育つことに繋がりたいと思っています。「ローマは一日にして成らず」といいます。すぐに結果が表れるものではなく、地道な活動の積み重ねですが、子供たちの北広島町での様々な体験がこの町への愛着へと繋がると信じています。

昨今の急速な社会変化やコロナウイルス感染症により、先を見通すことが困難となりました。こうした社会の変化に柔軟に対応ができる人材を育成していくことがますます求められ、またコロナ禍では農村の素晴らしさが見直されています。そういう時代だからこそ地域の様々な大人と触れ合いや人と協働できる人材の育成は重要で、このふるさと夢プロジェクト事業はまさにこうした人材を育てることのできる取組だと考えます。

この北広島町の宝である子供達が、ふるさとの自然、伝統、文化を継承し、大人になり次代の北広島町を担う子供たちを育てるという好循環を作り出すことが今を生きる私たち大人の使命とっております。

町民の皆さま、地域の皆さまの益々のご協力やご支援をよろしくお願いいたします。

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
隊長 箕野 博司
(北 広 島 町 長)

令和3年度 北広島「ふるさと夢プロジェクト」実施計画

1 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の実施及び応援隊について

事業目的:「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したい、子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み、将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町の定住対策として、教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したい子どもの育成」を目的とし、「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は、北広島町の「こんなことができる、こんなものもできる」と思える魅力を子供たちに再認識させ、将来「北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成を図る。

全町で同じ学年が同一体験をすることで、町内には多くの友達がいることを認識させ、仲間意識の醸成や閉塞感の払拭につなげる。

事業主体 北広島町

主 管 北広島町教育委員会

組 織

町長を応援隊長とする。

副町長・教育長を副隊長とする。

隊員として、町長部局の総務課・まちづくり推進課・商工観光課の職員、教育委員会の職員。

(本年度については、教育委員会事務局及び校長会が主体となって事業を行う。)

教育委員会事務局を事業事務局とする。また、学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。

将来的には、地域が主体となる組織とする。

【応援隊】

役 職	氏 名	
隊長	箕野 博司 (町長)	
副隊長	畑田 正法 (副町長)	池田 庄策 (教育長)
隊員	川手 秀則 (総務課長)	沼田 真路 (まちづくり推進課長)
	中川 克也 (商工観光課長)	教育委員会職員
	大丸 哲男 (小学校代表)	森近 泰典 (中学校代表)
事務局	植田 伸二 (事務局長)	西村 豊 (事務局次長)
	真倉 仁司 (事務局員)	大成純一郎 (事務局員)

2 具体的な事業の目的と本年度の取組について

年度当初に、教育委員会と一緒に8小学校が分担して諸計画を作成した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」は、一堂に会することはせず、リモートでの講演会実施、学校ごとのロケット製作・発射とした。また、5年生の「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」は実施できず、学校毎の日帰り登山活動とした。4年生については町内の魅力を体験する「町内お宝発見ツアー」学校毎を実施する。

■ 6年「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」

○植松電機 植松社長の講演を通して、夢を持ち実現することのすばらしさを学ばせる。

○ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高めさせる。

○ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

■ 5年「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」

○民泊の1つのプログラムとして、自然の豊かさ、地域の方々との触れ合いの楽しさを学ばせ、ふるさとの良さを実感させる。

○児童同士が協働して体験をすることで、お互いの親睦を図り、課題解決能力や協働する力を養う。

※新型コロナウイルス感染症感染拡大のため学校毎の日帰りの登山活動に変更

■ 4年「町内お宝発見ツアー」

○町内の自然を生かした体験活動や施設・企業の見学を通して、ふるさとの良さを実感させる。

令和3年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

芸北小学校

1. 実施した活動について

- 【期日】 令和3年10月14日（木）
【場所】 テングシデ群落・オオアサ電子
北広島町図書館・きたひろネット
【人数】 児童8名 引率2名
【ねらい】

「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさに住みたい、ふるさに帰りたくなる子どもの育成」という事業目的を達成するために、町内をめぐり、「お宝」を発見することで自分の将来について考える。

2 活動の様子

「テングシデ群落」では、曲がりくねったシデの木がたくさんあるのを見たり、シデの幹の太さを4人がかりで手をつないで確かめたりしました。

「オオアサ電子」では、全方位型のスピーカーの迫力ある音を聞き、液晶ディスプレイを作っているところを見せていただきました。画面が浮かび上がる映像には、みんなびっくりしていました。

「北広島町図書館」では、館内の説明を聞いた後、それぞれがお気に入りの本を借りました。たくさん本があり、どれを借りるか迷いました。

「きたひろネット」では、テレビのきたひろネットでいつも見ているスタジオや編集室などを見せていただきました。自分達で「芸北小学校4年物語」という台本を作り、それぞれが原稿を読み、実際に映像を撮っていただきました。番組の作り方がわかり、その雰囲気を楽しむことができました。

3. 児童の感想

私が一番楽しかったのは、「きたひろネット」です。入る時、緊張しましたが、いつものきたひろネットのスタジオを見ると緊張がほぐれました。カメラの前で声を出すことも初めは緊張しましたが、何回かするうちに余裕でできるようになりました。「テングシデ群落」では、大きなハートを見つけました。「何かいいことがあるかもしれない。」と思いスケッチしました。

「北広島町図書館」では、図書館にある本の数にびっくりしました。私は本が好きなのでうれしかったです。北広島にもいいところがたくさんあることが分かりました。

4. 活動を終えて

各見学場所では、丁寧な説明を受け、充実したふるさと夢プロジェクトになりました。子供達にとっても有意義な活動となり、自分の将来を考えるきっかけにもなったと感じました。



【テングシデ群落】



【オオアサ電子株式会社】



【北広島町図書館】



【上本家住宅】



【きたひろネット】

令和3年度北広島ふるさと夢プロジェクト4年生 活動報告

新庄小学校

1 実施した活動について

【期日】 令和3年11月5日（金）

【場所】 北広島町まちづくりセンター
芸北民俗芸能保存伝承館
戦国の庭歴史館

【人数】 児童11名 引率2名

【ねらい】

社会科の学習につながりのある施設の見学を通して学習の効果を高めると共に、町内の文化に親しむ活動により、地域についての学びを深める体験を積む。



【きたひろホールの高さに驚く4年生】

2 活動の様子

「僕達が暮らす北広島町だけど、その場所は、まだ行ったことないな。」「どんな施設かな。何があるのかな。」期待に胸を膨らませスタートした町内お宝発見ツアー。

新庄小学校4年生がまず訪れたのは、北広島町まちづくりセンターでした。施設に入った子ども達の目の前に広がったのは、たくさんの本棚や、思わず話し合いを始めたくなる会議室、そしてその広さに驚いたホールなど。わくわくが詰まった「宝箱」に子ども達の目も輝いていました。続いて訪れたのは、芸北民俗芸能保存伝承館。北広島町に伝わる伝統芸能や昔の道具など、まだまだ知らない町内のお宝を目の当たりにしました。昔の履物を体験したり、神楽の太鼓を打ってみたい子ども達。帰る時には「先生！今度の休みに家族とまた来ます。」と高らかに宣言する子もいました。最後に訪れたのは、戦国の庭歴史館。新庄小4年生は歴史好きが多く、吉川元春にまつわる様々な資料で大興奮の様子でした。「この石垣の組み方がすごいと思います。」という子も。ますます歴史好きになったようです。



【花田植での代かきの秘密を知る4年生】

今回のツアーでは、北広島町の知っているようで知らなかったお宝をたくさん発見することができました。町内の魅力に触れた素敵な一日になりました。



【昔の道具を体験する4年生】

3 児童の感想

◎ぼくは芸北民俗芸能保存伝承館が心に残りました。特に代かきがすごいなと思いました。花田植の時は代かきのやり方が相当難しそうだったので、すごいなと思いました。

◎まちづくりセンターの中を一周して、ここは大人も子どももみんなが楽しめる施設だと思いました。今度ここに来て本を読みたいと思いました。

◎戦国の庭歴史館で着物や下駄を身に付けました。昔の人は暑くて歩くのも大変なことが分かりました。

◎ぼくが社会見学で一番印象に残ったのは芸北民俗芸能保存伝承館です。

壬生の花田植の歴史を知ることができたのが印象に残りました。



【吉川元春の館に心を奪われる4年生】

4 活動を終えて

北広島町内の施設を見学して、町内に住んでいても知らないことがたくさんあることに児童は気が付いていました。見学終了後、休日にも施設を訪れた子ども達もいたようです。また、壬生の花田植については社会科の学習とのつながりもあり、学びに生かすことができました。ありがとうございました。

1. 実施した活動について

【期日】 令和3年10月1日（金）

【場所】 豊平運動公園・万徳院跡・戦国の庭歴史館

【人数】 児童16名 引率3名

【ねらい】

- 北広島町の自然・文化財・文化等のすばらしさを学ばせることで、ふるさとへの愛着と誇りを持たせる。
- 町内で活動されているアンプティサッカーチームの方と交流・体験をして生き方を深める。

2. 活動の様子

アンプティサッカーチーム（アフィーレ広島）の監督・選手とクラッチ（松葉杖）を使って、実際にボールを蹴ったり、ドリブルをしたりした。片足でのプレイは大変であったが、障がい者スポーツの理解を深め、楽しんで体験できた。また、紅白に別れて試合を行い、選手との交流を深めることができた。

万徳院跡では、中世の蒸し風呂体験を行い、当時の生活の様子を体験し、関心を深めることができた。八重東小学校の児童民生委員の方が、風呂焚きの手伝いに来ておられ、そこでも交流を深めることができた。

また、戦国の庭歴史館では、戦国時代に北広島町を支配していた吉川氏についての理解を深めることができた。戦国時代の食事や服装などの生活面についての説明に、関心をもった児童が多かった。

3. 児童の感想

- 初めてアンプティサッカーをして、片足だけでボールをけるのがとてもむずかしかったです。北広島町のアンプティサッカーのチームの選手といっしょにサッカーをして楽しかったです。また、試合があればみに行きたいと思いました。
- 中世のおふろは、自分の思っていたおふろとはちがってました。まっくらな中に入ったので、ちょっとどきどきしました。横のほうで、お湯をまぜてもらったら、中が熱くなりました。今度は家の人といっしょに来たいです。

4. 活動を終えて

北広島町に関連があり、児童が興味を持ちやすいものとして、今年度はアンプティサッカーと中世の蒸し風呂体験を行った。体験を通してふるさとへの理解を深められ、「楽しかった」と感じられるような活動を選択した。座学のみで終わらず、体を動かすような活動をバランスよく取り入れることで、児童の学習意欲が高まり、北広島町への理解・関心が深まった。

自分たちの身近なところに、まだ知らない魅力的なものがあることを知るきっかけになった。夢プロジェクト後に、アフィーレ広島のウォーキングサッカー体験に参加した児童もいた。今回の学習活動をいかし、今後も、地元のイベントなどにも進んで参加していくように声をかけていきたい。



【アフィーレの選手とドリブル】



【アンプティサッカー紅白試合】



【万徳院、中世のお風呂体験】



【戦国の庭歴史館、館長の解説】

令和3年度北広島ふるさと夢プロジェクト4年生 活動報告

壬生小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和3年10月8日（金）

【場所】 臥竜山（北広島町八幡）

【人数】 児童21名 引率3名

【ねらい】

○町内の自然を生かした体験活動を通して、ふるさとの良さを実感する。

○友達と登山体験を通して、目標に向かって、最後までやり切る力や協働する力を養う。

2 活動の様子

臥竜山の登山をした。全員があきらめずに最後まで登り切るための作戦を考えて登山に参加した。

北広島町観光協会より、トレッキングガイドの上野吉雄さんと西村啓太さんに案内をしていただいた。

登山道の途中には、小さな小川や倒木もあり、それを乗り越えながら、頂上を目指した。

八合目では、湧き出ている「雪霊水」を飲んだり、顔を洗ったりして登山の疲れを癒し、臥竜山登山の最大の難所である山頂までの道のりを登るための力を蓄えることができた。

最大の難所である九合目では、先に頂上についた児童が後から登ってくる児童に励ましの声かけをしたり、背中を優しく押したりしながら、全員が最後まで登り切ることができた。途中、しんどかった児童も、頂上に到着すると最後までやり切った満足感を得ることができた。

3. 児童の感想

ぼくは、10月8日（金）臥竜山に登りました。登山口には、トレッキングガイドさんが二人待っておられました。ぼくは、登山中に色々な生物に出会いました。そして、その生物についてトレッキングガイドの上野さんに教えてもらいました。

雪霊水に着くと、タオルを水で濡らしたり頭を水で濡らしたりして休みました。頂上に着くと弁当を食べました。

ぼくは、家に帰って上野さんから教わったことをお母さんに全て話すと、お母さんが褒めてくれました。ぼくは、とても嬉しくなりました。いつかまた、上野さんに会ったら、またたくさんの生物や植物を教えてもらいたいです。

4. 活動を終えて

児童は、今回の活動を通して、北広島町の自然の素晴らしさや動植物の多様性を実感することができた。また、あきらめずに最後までやり切ることの良さや友達と協働することの良さを感じることができた。この経験を普段の学校生活に生かしていきたい。



【小川も渡って】



【八合目の雪霊水にて】



【友達と励まし合いながら】



【臥竜山頂上にて】

令和3年度北広島ふるさと夢プロジェクト4年生 活動報告

本地小学校

1 実施した活動について

【期日】 令和3年10月26日（火）

【場所】 「芸北民俗芸能保存伝承館」「まちづくりセンター」
「戦国の庭歴史館」「テングシデ群落」「北広島町図書館・大朝郷土資料室」

【人数】 児童12名 引率2名

【ねらい】

北広島町の各施設で職員の方の話を聞いたり、自然を観察したりすることを通して、北広島町の歴史や文化、自然を学習し、自分たちの住む町の魅力について課題意識をもつ。



【芸北民俗芸能保存伝承館で職員の話をしている様子】

2 活動の様子

「芸北民俗芸能保存伝承館」では、北広島町の伝統芸能や伝統工芸品について職員の方の話を聞いたり、直接触れたりして、自分たちの住む町の魅力について考えた。「まちづくりセンター」では、施設を見学し、実際に会議をされている部屋に入室させていただき、部屋の使われ方を知ることができた。「大朝テングシデ群落」では、テングシデの名前の由来や歴史、地域の方の思いを学んだ。「戦国の庭歴史館」「北広島町図書館・大朝郷土資料室」では、北広島町の歴史について学んだ。



【まちづくりセンターの館内を見学】

3 児童の感想

- 運動会で踊った本地花笠おどりの歴史を知ることができ、大人の衣装や花笠を目の前で見ることができて、とても迫力があり、感動しました。
- 社会見学に行くまでは、どうしてテングシデという名前なのかわかりませんでした。名前由来の話を知ると、思っていたより面白かったです。
- まちづくりセンターには本もたくさんあってびっくりしました。会議の様子も見ることができて勉強になりました。
- 北広島町図書館・大朝郷土資料室では、本だけではなくDVDもあったのでびっくりしました。また、おばあちゃんの家も近くにあるので、おばあちゃんに話を聞いてみたいと思いました。



【テングシデの名前の由来を聞いている様子】

4 活動を終えて

社会科や総合的な学習で地域の事について調べていたが、実際に地域の事に詳しい方に話を聞いたり、本物の資料に触れたりする体験は児童にとってとても貴重な時間になった。北広島町のお宝を実感し、児童が「北広島町のよさを伝えていきたい」と思えるような取組であった。



【北広島町図書館・大朝郷土資料室の様子】

令和3年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

八重小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和3年12月14日（火）

【場所】 楠苑（三島食品資料館）
道の駅 豊平どんぐり村 どんぐり庵
芸北民俗芸能保存伝承館

【人数】 児童34名 引率3名

【ねらい】

北広島町内の特色について知り、ふるさとについての理解を深めるとともに、ふるさとへの愛着を高め大切にしようとする気持ちを持たせる。

2. 活動の様子

『楠苑』では、職員の方に解説・案内をしてもらいながら、三島食品の沿革や全国各地のふりかけ商品などについての展示物を見学した。

豊平どんぐり村では、『どんぐり庵そば道場』にて、そば打ち体験と手打ちそばの試食を行った。

『芸北民俗芸能保存伝承館』では、神楽と壬生の花田植について学芸員の方に解説していただき、展示物を見学したり、楽器や道具の体験をしたりした。

3. 児童の感想

○三島食品ふりかけ資料館『楠苑』

「ふりかけには、たくさんの種類があるのはわかってはいたけれど、ぼくが想像していた10倍も種類があったのでびっくりしました。」
「自分が知らないだけで、ふりかけ製造にもたくさんの苦労や努力があったことにびっくりしました。ただのふりかけが、すごく大切に思えました。」

○豊平どんぐり村『どんぐり庵そば道場』

「チームで協力してそばを打ちました。とても難しくて苦戦したけれど、友達と楽しくできました。自分たちで作ったそばは、いつもよりおいしく感じました。ここで勉強したのは、そばの打ち方とチームワークです。」

「一番難しかったのは、包丁で切るところです。ちょっと麺が太くなってしまったので、次はもう少し細い麺が作れるようになりたいです。でも、一生懸命作ったそばなので、太くてもおいしかったです。」

○『芸北民俗芸能保存伝承館』

「神楽と花田植の『めずらしポイント』と『すごいポイント』を教えてくださいました。広島県や北広島町ではとても普通なことが、他の県では普通ではないということが分かりました。花田植と神楽のすごさと魅力を知ることができました。」

「展示してある神楽の楽器（大太鼓・小太鼓・手打ち鉦）を体験できてよかったです。何回太鼓をたたいてみてもうまくいかなかったから、神楽の太鼓を担当している人を尊敬します。」

4. 活動を終えて

当初9月に計画していたが、コロナウィルス感染拡大の状況により、内容を変更して12月に実施することとなった。どの見学地も、4年生にとって興味・関心を持って見学・体験できる施設だった。また、各施設の担当の方が丁寧に対応してくださり、児童も時間いっぱい意欲的に活動に取り組むことができた。



【楠苑（三島食品資料館）】



【どんぐり庵 そば打ち体験】



【芸北民俗芸能保存伝承館】

1. 実施した活動について

【期日】 令和3年10月1日（金）

【場所】 芸北民俗芸能保存伝承館
まちづくりセンター
大朝のテングシデ群落
オオアサ電子

【人数】 児童 18名 引率者 2名

【ねらい】

町内の自然を生かした体験や町内の施設の見学を通して、ふるさとの良さを実感させる。



【伝統芸能に触れて】

2. 活動の様子

当日は、天候にも恵まれ、絶好の見学日和となりました。豊平小学校は4年生18名で千代田・大朝地域に行きました。

千代田地域では、芸北民俗芸能保存伝承館とまちづくりセンターを見学しました。芸北民俗芸能保存伝承館では、民俗芸能やその背景にある農村の暮らしの道具を体験しながら学びました。まちづくりセンターでは、施設内の各部屋の役割等について知ることができました。

大朝地域では、大朝のテングシデ群落とオオアサ電子を見学しました。大朝のテングシデ群落では、テングシデの由来を知り、悠久の自然に触れることができました。オオアサ電子では、主にオーディオスピーカー「Egretta」の製作に込められた地元企業としての想いを知ることができました。



【地元企業の魅力を探って】

3. 児童の感想

- ・昔は服を買うのではなく、種まきから始めることを知り、昔の人は工夫もしているし、苦勞もしていることを知りました。（芸北民俗芸能保存伝承館）
- ・ホールの秘密（収納の仕方）を知ることができてうれしかったです。（まちづくりセンター）
- ・テングシデの由来を知って、すっきりしました。（大朝のテングシデ群落）
- ・工場では細かい作業は手作業でしていて、すごいなと思いました。（オオアサ電子）



【テングシデの由来を知って】

4. 活動を終えて

普段何気なく過ごしていると気づけない「ふるさとのよさ」をたくさん知ることができました。学校に戻ってからは、見学して気付いたことを川柳に表しました。

- ・シデの木が 何かの変化で テングシデ ・エグレッタ しっばい重ねた 完成品



【川柳～お宝発見ツアー～】

令和3年度北広島ふるさと夢プロジェクト 5年生 活動報告

芸北小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和 3年 10月 7日 (木)

【場所】 龍頭山 (北広島町都志見)

【人数】 児童9名 引率3名

【ねらい】

登山を通じて、北広島町の自然に親しむとともに、「生活科・総合的な学習の時間」を中心とした『育てたい六つの資質・能力』のうち、主に「意志力」「自己回復力」「安全・安心をつくる力」を育成する。



2 活動の様子

ガイドの方に龍頭山にある「駒ヶ滝」や「黒龍」について説明して頂きながら、登りました。「駒ヶ滝」では、滝を裏側から見たり、流れてくる滝の水に触ったりすることができました。児童は、初めて見る「駒ヶ滝」にとっても感動し、写真を撮ったり、水に触ったりしていました。

登山道の後半から山頂までの道のりが険しく、途中で諦めそうになっていた児童もいましたが、周りの児童と励まし合いながら、全員で怪我無く、登頂することができました。途中ガイドの方に枝を切ってもらい、杖として使っていた児童もいます。また、道中では、落ち葉や木の実などを拾い集め、自然の良さを感じながら、楽しく活動することができました。



【滝の水に触れてみよう！】

3. 児童の感想

私は、初めて龍頭山を登りました。登りは、石や階段が多く、とともしんどかったけど、頂上からのきれいな景色を見ることができて、「頑張ってよかったな」と思いました。頂上からは、芸北地域の山や宮島を見ることができて、とても嬉しかったです。

私が一番印象に残ったのは、「駒ヶ滝」です。理由は、滝を裏側から見ることができ、そこには、観音様がいることにとっても驚いたからです。また、龍頭山に行ってみたいと思えました。



【山の木を杖に活用！】

4. 活動を終えて

児童同士で危険な箇所について声を掛け合い、励ましながら全員で登頂することによって、とても達成感を感じることができたようです。児童は、様々な植物を見つけたり、触ったりして北広島町にある自然の良さを感じることができました。



【山頂でのお弁当最高！】

令和3年度北広島ふるさと夢プロジェクト5年生 活動報告

大朝小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和3年10月29日（金）

【場所】 熊城山 テングシデ群落地

【人数】 児童11名 引率3名

【ねらい】

- ・校区内にある山に登ったり、国の天然記念物を見学したりすることを通して、郷土への関心・理解を深める。
- ・地域に住んでおられるガイドさんの話を聞き、地域への愛着と思いを感じ、自分たちにできることについて考える。

2 活動の様子

地域に住んでおられる方にガイドをしていただきながら、校区内にある熊城山登山、テングシデ群落地の見学を行った。

登山をしながら、木や植物、山に住む動物などについて話を聞き、「モミジとカエデの見分け方」「熊床はなぜできるか」など、新たな知識を得ることができた。

テングシデ群落地では、「テングシデはシデの木が突然変異をしたもので、珍しい木であること」「テングシデを増やすために環境を整えていること」「たくさんの方にテングシデ群落地に来てもらうための取組を行っていること」などの話を聞き、関わっている方々の思いや願いを感じることができた。

3. 児童の感想

（熊城山登山）

熊城山に登りました。登山では、木について学ぶことができました。スギ、ヒノキ、イヌシデ、カエデ、モミジなど知っているものが多かったですが、名前の由来や見分け方を教わり分かるようになりました。新しい発見もたくさんあり、みんなで登ることができた熊城山登山は、とても楽しかったです。

（テングシデ群落地見学）

テングシデは、シデの木の幹が曲がりくねるという突然変異を経てできたそうです。突然変異は子孫を残さないようですが、大朝にあるテングシデは突然変異をした姿を受け継いでいて、今もまだ増えています。それがめずらしいので、国の天然記念物に指定されているそうです。

許可をいただいて群落地の中に入れていただきました。間近から見たテングシデは、木や幹がグネグネ曲がっていてそのすごさに圧倒されました。いちばん太い木の周りに集まり、手をつないで何メートルあるかを確認してみたら、なんと3メートル以上もありました。樹齢百四十年ぐらいだそうです。

地域の方が「テングシデを守る会」を作り、環境を整備され、たくさんの方に大切にされているテングシデを、私たちも大切にしていきたいと思います。

4. 活動を終えて

地域にある観光地とはいえ、実際に行ったことがある児童は少なかった。今回、実際に山に登り群落地を見学することで、地域の自然の素晴らしさがわかり、より身近に感じるようになった。また、地域の方の話を聞くことで、その活動や思いについても感じることもできた。



【植物の説明を聞く様子】



【山頂にて】



【テングシデの説明を聞く様子】



【幹の太さを測ってみよう！】

令和3年度北広島ふるさと夢プロジェクト5年生 活動報告

新庄小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和3年10月1日（金）

【場所】 臥竜山

【人数】 児童13名 引率3名

【ねらい】

1 登山という体験活動を通して、ふるさと臥竜山の自然に触れ、ふるさとの良さを実感する。

2 みんなで協力して、苦しくても最後までがんばって達成感を味わう。

2 活動の様子

登山口で、北広島トレッキングガイドの方に山の中の注意や臥竜山のことについて話を聞いて、出発しました。最初は、ススキに囲まれたなだらかな道でしたが、登っていくと、だんだん急な道になり、滑りやすくなってきました。ガイドさんの登っていく道と同じ所を通ると滑りにくく、橋のない川を渡るときは、ガイドさんが助けてくださったので安心して渡ることができました。

登り始めて約1時間で、8合目に到達しました。自然の湧水があり、休憩をした後、山頂に向けてラストスパート。お互いに声をかけながら、登ること約20分。先頭の子供たちが頂上に到達しました。後から登っていく子供たちに、「あと少し」「もうすぐよ」「がんばって」と声をかけ、誰一人リタイヤすることもなく、13名全員が頂上まで登りきることができました。

みんなやり切った達成感で笑顔いっぱい、おいしいお弁当を食べてさらに笑顔となりました。

下山では、「登るより下りる時が危ない」とすべりながらも下りてきました。途中、超巨大な二ホンヒキガエルに会うなど忘れられない体験となりました。

3. 児童の感想

- ・臥竜山に登るのはつらかったけど、頂上に着いてうれしかった。
- ・頂上では、マムシが岩に同化していてびっくりした。知らずに近くにいた人が無事でよかった。
- ・下山では、すべてこわかったけど楽しかった。
- ・だれもけがをしなくてよかった。
- ・終わってみると楽しかったです。

4. 活動を終えて

普段では、なかなか体験できない登山活動を通して、一人一人が自分の目標を決めて、達成しようとして取り組みました。全員が達成をし、そのことから自分の成長を、朝会で発表したり、学習発表会ではスライドを作ったりして発表しました。想像できなかった登山の大変さを体験したことで全員が達成感を感じ、友達同士で声をかけ合ったことでクラスの団結力が高まりました。



【登山口で はじめの会】



【橋のないところは…】



【急な道では声かけ合って】



【山頂で集合】

1. 実施した活動について

- 【期日】 令和3年10月15日（金）
 【場所】 龍頭山（広島県山県郡北広島町都志見）
 【人数】 児童24名 引率4名
 【ねらい】○登山することで、自然の雄大さを感じさせ、困難を乗り越えた後の達成感を味わわせる。
 ○北広島町内の名山を登山することによって、ふるさとのよさを実感させ、愛着を育てる。



【 ガイドさんによる説明 】

2. 活動の様子

2班に分かれて滝見コースから、稜線コースを通るルートで登山をした。途中にある駒ヶ滝では、勢いよく水が落ちてくる様子に、歓声が上がっていた。

また、ガイドさんの案内で、滝の裏側にある地蔵や、断崖の壁面に描かれた絵を見る等、自然の雄大さを満喫することができた。最後の難関の階段コースでは、お互いに励ましの声を掛け合う場面も見られた。昼前には全員無事に山頂に到着することができた。絶好の登山日和で、山頂からの360度の眺望は素晴らしいものであった。自分たちが登った北広島町の山から、瀬戸内海までが見渡せることに大変驚いていた。達成感と充実感を味わうことができた登山であった。



【 駒ヶ滝にて 】

3. 児童の感想

- 登山を通して学んだことは「つらいことがあっても必ずゴールはある。」ということ強く感じました。しかも達成感も半端なかったです。
 ○ 北広島町にも、滝やきれいな水が残っているとわかりました。また、山は見る方向によって形が違うということもわかりました。緑豊かな日本の森、自然を大切にしていきたいと思えます。
 ○ 私は、このふるさと北広島町の隣の町でこんな有名な山があるなんて知りませんでした。また、龍頭山には、過酷な所がたくさんありました。でも友達の「がんばれ。」「もう少しだよ。」という声がとても心に響き、頂上までたどり着くことができました。



【 励まし合って登る様子 】



【 山頂にて全員で記念撮影 】

4. 活動を終えて

同じ北広島町内でも、千代田地域とは自然環境の異なる豊平地域での登山活動は、児童にとって新鮮なものであったと感じている。登山そのものが初めての児童も多く、ガイドさんや友達に励まされながら最後まで登ることができたことは貴重な経験になった。山頂からの雄大な眺めや全員で登ったという達成感はコロナ禍の中の児童の生活において大変有意義で、かつ心に残る体験活動になった。心も体も成長したように感じる。

2名のガイドさんからは、山登りの心構えや自然の素晴らしさなど、様々なことを学ぶことができたようである。ふるさとへの愛着心を育て、困難を克服する強い心を育てる意味で貴重な体験をすることができた。

1. 実施した活動について

【期日】 令和3年10月 8日（金）

【場所】 芸北オークガーデン

【人数】 児童26名 引率3名

【ねらい】

- ・北広島町の産業の一つである、芸北の自然を生かしたエネルギー・資源について知り、郷土への関心・理解を深める。
- ・薪作りという共同体験学習を通して、働くこと・収入を得ることについて実感を伴って理解するとともに協働することの意味や大切さを学ぶ。



【ボイラー見学の様子】

2 活動の様子

まず、オークガーデン施設内のボイラーを見学した。芸北に湧き出る冷泉を温めるため、かつては燃料として重油を使用していたが、芸北の木を燃料として活用することで、山林の整備・地域活性化・また僅かではあるが地球温暖化を食い止める事業（産業）となっていることを学習した。

次にせどやま市場を見学した。たくさんの木がこのせどやま市場に運び込まれ、その木を薪等に加工して木の売買が行われている場所だと知った。緑豊かな本町の木が資源として活用されていることを知り、木が本町の財産であると気付くことができた。

午後からは薪作り体験を行った。丸太の運搬、のこぎりを使用しての玉切り、薪割り機を使用した薪割り、出来上がった薪の運搬などを役割分担して行った。安全に気をつけたり、声掛けをしたり協力したりしながら作業することができた。作業終了後には、労働の対価として「せどやま券」をいただいた。働いて収入を得ることの意味を実感することができた。また、せどやま券を使ってアイスクリームを購入したことで、お金の大切さ等を改めて知ることができた。



【せどやま市場見学】

3. 児童の感想

今回、5年生のふるさと夢プロジェクトで芸北オークガーデンに行きました。

まず、冷たい温泉水をボイラーを使って温めていて、その燃料に芸北の木を使っていることを知りました。

次に、せどやま市場を見学しました。木の丸太や薪がたくさん置いてあって、すごかったです。市場なので、薪を買うことができると知りました。

その次に薪作りをしました。のこぎりを使って40センチメートルずつの長さに切りました。切るのはとても疲れたけれど、薪にするのが楽しかったです。

最後に働いてもらった給料（せどやま券）をもらって、みんなで芸北ドルチェのジェラートを食べました。とてもおいしかったです。



【丸太を玉切りにしている様子】



【働いてもらった給料（せどやま券）で芸北ドルチェのジェラートを買って食べました！】

4. 活動を終えて

今回のふるさと夢プロジェクトは、従来の5年生が実施するプログラムを変更して実施させていただいた。子ども達は、この北広島町が自然が豊かという特色を生かして、その自然を活用した産業で地域活性化を図ったり、環境問題に取り組んだりしていることを知り、北広島町の持つ魅力を、一部ではあるが体験することができたと感じている。また、体験活動を通して、他者とのより良い関わりについても実感をもって学ぶことができた。

最後に、北広島町教育委員会をはじめプロジェクトに関わって下さった関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

1. 実施した活動について

【期日】 令和3年10月8日(金)

【場所】 芸北文化ホール・さあくる

【ねらい】

- ・郷土への愛情を深めさせ、ふるさとに誇りを持つことができる。
- ・「さあくる」の皆さんと一緒に関わりながら、楽しむことができる。
- ・先輩との交流を通して、仲間意識を育てると同時に、将来に向けて見通しを持つことができる。

2 活動の様子

まず、5年生と一緒に写真撮影をしてから、学校を出発した。

午前中は、「さあくる」の皆さんと交流した。他者紹介をした後、どの花・貝殻が良いかを児童が選び、ハーバリウムを作った。その後、ボッチャの体験をした。

芸北文化ホールへ移動し、昼食を摂った。午後からは、児童の先輩と一緒にゴムの輪を使った遊びをした。それから色紙で写真立てを作った。保護者にも参加して頂き、保護者同士の会談の場も設けた。

児童は、初めて会う方には緊張してしまうことがあるが、午前中から常に笑顔でリラックスしており、声もよく出していた。

3. 児童の保護者の感想

「さあくる」の皆さんの温かく包み込む雰囲気のおかげで、娘は初めから緊張せず、リラックスしながら楽しむことができた。娘にとっても、家族にとっても得るものがとても多かった。

たくさんの準備をして頂き、また当日も3名の先生にいろいろと動いて頂き感謝している。

4. 活動を終えて

5年生の夢プロジェクトは「芸北オークガーデン」でボイラーを見学したり、薪を作ったりすることだったので、児童は別の活動をする事となった。

障害者支援センター「さあくる」は、常に介護を必要とする方に対し、日常生活上の支援を通じ、必要な援助を行っている。また毎日楽しく利用できるように、レクリエーション等も行っている。当日も児童に合った活動を取り入れて頂いた。5年生と別の活動をする事になったが、児童の夢プロジェクトは大成功だったと思う。保護者は、児童のリラックスした表情、利用者の楽しそうな表情を見られ、また保護者同士の会談により、将来の見通しを持つことができ安心されたようである。



【5年生と一緒に写真撮影】



【ハーバリウム作り】



【 ボッチャの体験 】



【 先輩との交流 】

1 実施した活動について

【期日】 令和3年10月19日（火）

【場所】 龍頭山

【人数】 児童10名 引率2名

【ねらい】

自然の雄大さを感じ、困難を乗り越え達成感を味わう。

2 活動の様子

どんぐり村で開会式を行った。どんぐり村から龍頭山を眺め、「山頂は見えないところにあるよ。」と教えていただいたが、その時には、まだ登山の大変さに気付いてはいなかった。

登山の途中には、様々な見どころがあり、ガイドの方が丁寧に説明をしてくださった。子供たちも真剣に聞き、龍頭山がどんな山か理解することができた。駒ヶ滝や展望台から眺めなど、普段目にすることのない美しい自然に触れ、子供たちは様々なことを感じていた。また、登山の半分以上を過ぎたあたりから、だんだん体力的にしんどくなってきたが、子供たちは自然に「がんばるぞー!」「おお!」と大きな声でかけ声をかけ合い、励まし合っていた。展望台や山頂からは宮島が見え、山の大きさに感動していた。下山する少し前から天候が急変し、用意していた雨具を使うことになった。山の天候は変わりやすいことを、身をもって知ることができた。

3 児童の感想

- 大自然の中で歩くのはとても気持ちよかったです。
- 滝はきらきらしていて、とても美しく優しい滝に見えました。見ていると、心が落ち着いてきました。
- 頂上と展望台からは、宮島が見えました。40kmも先のものが見えるなんて、と不思議に思いました。
- 上りがつらくて無理だと思った時、友だちが「がんばるぞ。」と力強くかけ声をかけてくれて、がんばろうという気持ちになりました。
- 山に登る前も自然は美しいと思っていたけど、山に登った後は、自然の豊かさをしみじみと感じました。

4 活動を終えて

登山の経験は少ない子供たちが、想像以上にきつい登山コースを、共に励まし合いながら全員が登ることができ、達成感を味わうとともに、学級の団結力も高まった。また、ガイドの方の丁寧な説明のおかげで、山の歴史も知ることができた。自然の雄大さをしっかりと感じ取り、自然に触れることのすばらしさを実感できる体験となった。



【開会式の様子】



【駒ヶ滝で水しぶきをあびている様子】



【励まし合いながら山に登る様子】



【登り切って達成感いっぱいの様子】

1. 実施した活動について

【期日】令和3年10月 1日（金）

【場所】臥竜山

【人数】児童30名 引率4名

【ねらい】

- ・町内の自然を生かした体験活動を通してふるさとの良さを実感する。
- ・自然の中での共同体験を通して、課題解決する力や協働する力を養う。

2. 活動の様子

登山口で開会式を行い、登山ガイドの方から登山の注意点についてお話をいただきました。

登山開始後は平坦な道が続き、ススキに囲まれた道に秋を感じながら進むことができました。元々牧場であったことや、道中に掘られた穴はイノシシが掘った跡であることなどを解説していただき、子供達は自然の豊かさを感じていました。

登り道では、勾配のきついところで「大丈夫?」「気を付けてね。」と児童同士で声を掛け合い、時に手を引っ張ってあげるなど協力する姿が見られました。また、ユズリハやクロモジ、ヒキガエルなど登山中に会った動植物についての解説を聞き、実物を見ながら自然に親しむことができました。

昼食は、雪霊水の湧き出ている場所でとりました。子供達もこの時を待ち望んでいたようで、みんなでお弁当を広げて食べました。疲れの見えていた顔に、元気が戻りました。

昼食後は、山頂目指してもうひと頑張りしました。先頭集団が山頂に着き歓声をあげていると、自然と後続の子達のペースも上がりました。みんな登り切ったところで記念写真をパシャリ。「達成感」という、登山の醍醐味を味わえました。

そして下山です。下ってみて初めて気付く勾配の急さに驚いていました。時折滑りながらも楽しそうに下っていましたが、徐々に足ががくがくとしてきて、下りは下りできついことを体感していました。

3. 児童の感想

○山を下りる時は、たくさんこけてたくさんすべっていろんなところがよごれました。それでみんなでたくさん笑いました。今日一番大変だったことは、山を登る時と（帰りの）バスを降りた後です。山を登る時は、歩いているのに走っている時ぐらい息があはあしていました。バスを降りた後は、眠くて眠くてめちゃくちゃしんどかったです。初めての登山だったので、良い経験になりました。

○山登りはそこまで大変じゃないと思っていたけれど、（山の）半分ぐらいになったらだいぶつかれてきて、山を下り終わった時はもうへとへとでした。でも、山の中できれいな花や景色が見れてとてもよかったです。また、友達の手を借りて協力して山を登りました。友達と協力して山登りをして、もっと仲良くなったなと思いました。広島にはまだ他にもきれいな山はあるのかなと思いました。

4. 活動を終えて

登山の経験があまりない児童が多く、想像していたよりも体力を使うことに驚いていました。しかし、みんなで声を掛け合い、豊かな自然を感じながら登ることで、仲間とともに活動する良さを感じることができました。3週間後に控えた運動会に向けて、クラスの団結を培う活動とすることができました。



【ススキに囲まれた道】



【沢も渡りました】



【山頂到着！】



【下りは下りできつい…】

1. 実施した活動について

【期日】 令和3年 10月29日（金）

【場所】 龍頭山

【人数】 児童24名 引率4名

【ねらい】

- ・地元の山を登り、風景を見ることでふるさとに対する愛着をもたせる。
- ・仲間と共通の体験をすることで絆を深める。

2. 活動の様子

2班編成で登山を行った。登山は初めての児童が多く、特に今回のようにふもとから山頂まで自分の足で登ったことのある児童は2名だった。

事前学習として、「登山中に負の気持ち（やめたい気持ち）が強くなった時にどうするか」について話し合った。登山中は、その作戦を実行する姿が多く見られた。

「機会を見て円陣を組む」「隊列を工夫する」「お互いに声を掛け合う」「景色や自然を楽しむ」「余裕のある人は荷物を持ってあげる」などの作戦を実行しながら、全員登頂に対する意識を持ち続けることができた。

児童の目標であった全員登頂も無事達成でき、充実した表情で下山した。



【山頂にて】



【ふもとで感染対策を意識しつつ円陣】

3. 児童の感想

・登る前は「しんどそうだな。」と思って嫌だったけど、友達と楽しく会話をしながら登ったので、全然嫌だと感じなかった。頂上の景色がきれいだったので、また登りたい。

・初めての山登りで不安だったけど、みんなと会話をしたり、葉をちぎって形を作ったりして「いやだな」という気持ちをなくすことができた。みんなと一緒に楽しく登れたこと、知らなかったことを知ることができたこと、大変な思いをしたからこそ、頂上に着いた時がその分うれしいことが分かった。将来、誰かを連れて登ってみたい。



4. 活動を終えて

龍頭山は地元の山であり、学校の裏山である。しかしながら、山頂に登ったことのある児童は3分の1に満たなかった。屋上駐車場から登ったら5分程度で山頂に着けるほど手軽な山であるにも関わらず、経験がない状況だった。

児童は、辛い思いも楽しい思いも味わったが、龍頭山登山の良さを体験し、また登りたいという意欲を持った。ねらいであった「ふるさとに対する愛着を持つ」ことについては、十分に達成できたと言える。

もう一つのねらいである「絆」についても、作戦の実行を通じて十分に深めることができた。さらに、レジリエンスについても指導することができ、実り多い活動となった。

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

芸北小学校

講演会

思うは招く～夢があればなんでもできる～

「人は必ず失敗する。失敗はデータである。乗り越えたら力になる。」「人は足りないからこそ助け合える。」「どうせ無理だと思わずに、自分の夢をどんどん人に話せば、助けてくれる仲間が増える。」等、勇気や元気、やる気が出る魔法の言葉をたくさんいただきました。先生の経験をもとに繰り広げられるユーモアたっぷりのお話に、子どもたちみんなが釘づけでした。

一言も聞き逃すまいと、一生懸命メモを取り、笑ったり、うなずいたりしながら聞いていたので、1時間があっという間でした。

私は、植松先生の話聞いて、本をたくさん読もうと思いました。理由は、本をたくさん読むと、夢に一步步近づけると思ったからです。また、やったことがある人を探してヒントをもらいたいです。いろんな人の手助けをもらい、失敗をおそれずに頑張りたいです。



夢を込めて ロケット製作

作り方を良く見て、友達と教え合いながら丁寧に組み立てていきました。ロケットの形を作る所までは、スムーズに進みました。

その後、絵や模様を描く時に「何を描こうか。」「失敗したらどうしよう。」と、真っ白なロケットを見つめてじっと動かない人が多数。ようやく勇気を出して一歩踏み出すことができ、自分の夢を込めた世界に一つだけのロケットが完成しました。



部品一つ一つを丁寧に組み合わせていく時、楽しいと思う反面、心配でした。一つでも間違えると飛ばない、そんなプレッシャーを感じました。でも植松先生は「失敗しない人なんていない」とおっしゃったので、その言葉を胸に私はロケットを作りました。

ロケット発射～保護者や下級生の夢も乗せて～

運動会終了後、応援に来てくださった保護者と下級生に見守られながら、ロケットを発射しました。

「3, 2, 1, 0」という掛け声に合わせて、ロケットが勢いよく飛び出した時は、グラウンドに大きな歓声が上がりました。小さくなるロケットを見上げながら、「夢に向かってがんばるぞ!」という思いを強くした子どもたちでした。



ぼくは、ロケットを発射させる前に「ちゃんと飛ぶかな。」「大丈夫かな。」と思いました。ロケットを発射させるだけに、こんなに不安があるのだと分かりました。植松先生が言われていたように、飛んだらとてもうれしいことが分かりました。だから、何事にもチャレンジします。



「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

大朝小学校

講演会

思うは招く～夢があればなんでもできる～

9月28日(火)に北広島ふるさと夢プロジェクト事業「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」が行われました。民間でロケットを研究・開発しておられる北海道の植松電機代表取締役の植松 努さんによる講演を聞きました。植松さんのわかりやすく楽しいお話を聞き、「自分はどうか」と振り返ったり、「頑張ってみよう」と決意を新たにしたりすることができたようです。



植松さんの話から、「夢を持ち、実現させること」のすばらしさを学びました。私には夢があります。「それをかなえるのは無理かも」と思っていたのですが、今回話を聞いて「頑張ってみよう。」という気持ちになりました。これからも夢の実現に向けて頑張っていこうと思います。

二人で協力 ロケット製作

楽しみにしていたロケットづくりの日。「うまくできるか心配だね。」と言いながら作業に取りかかりました。説明書をしっかり読んで、困ったときには二人で話し合い、うまくできないところは助け合い、青空に打ち上げたイメージをもって着色し、世界に一つだけのすてきなロケットが出来上がりました。



説明書を見ながらちゃんと作ることができるか心配でした。でも「これどうやったらいい?」「紐をちょっと持ってくる?」「これでいいんかね?」などと話しながら二人で協力して作ったので、楽しく作ることができました。最高のロケットができました。

お母さんたちと一緒に ロケット発射!



10月23日(土)、大朝小中学校地域公開の日にロケットの打ち上げを行いました。小学生、中学生、そして保護者の方の見守り中、カウントダウンに合わせて発射ボタンを押しました。「シューー！」と音を立ててあっという間に飛んでいくロケットに、みんな大拍手でした。「きっと自分の夢は叶う。」「これから、自分の夢の実現に向けてがんばりたい。」と決意を新たに二人でした。

「3, 2, 1, ゴー!」カウントダウンのかけ声とともに、発射スイッチを押しました。すごい速さで飛んでいくロケットを見て、「子供の私たちでも飛ばせるようなロケットがあるなんてすごい!」と思いました。ロケットは、すごく高く飛びました。自分の夢に向かって飛んでいるような気がしました。

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

新庄小学校

講演会

思うは招く～夢があればなんでもできる～

昨年度に続き、リモートで植松電機代表取締役の植松努先生による講演を聞きました。植松先生の講演は、工作好き、アニメ好きな児童たちと多くの共通点があり、みんなとても親近感をもって集中して聞いていました。話される言葉はどれも説得力があり、多くのことを学んでいるようでした。



植松さんの話を聞いて、夢が広がった気がしました。私の今の夢は3つありますが、「なぜその夢なのかを考えてみる」という話を聞いて、考えてみました。すると、「かっこいいから」「好きだから」「目立つから」という理由が思い浮かびました。「それならもっと夢を見つけられる」と気づき、今の3つの夢が広がりました。これから、もっと夢の内容を具体的にしていき、かなえていけるようにしたいと思いました。

考え、助け合ったロケット製作



講演会の後、すぐにロケットを製作しました。最初は説明書をじっくり読みながら一人で作っていましたが、分からなくなったときや、間違っていないか不安になったときには友達に声をかけ、助け合って作り上げることができました。

ロケット作りでは、パラシュートを折りたたむ時に少し迷いました。パラシュートを入れる時は全然分からなかったけど、友達が教えてくれました。おかげでちゃんと作ることができました。作りながら、「ちゃんと飛びかな？」と少し不安になりました。



夢を宣言して、ロケット発射

10月28日（木）に町民グラウンドへ行き、5年生や数名の保護者の方たちの前で自分の夢を宣言した後、夢を乗せてロケットを飛ばしました。



夢を宣言して発射する時、後ろからみんなが「3、2、1」と言ってくれて、背中を押してくれてるみたいでとても楽しかったです。ロケットをキャッチできるかドキドキしながら走って追いかけてました。

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

八重小学校

思うは招く～夢があればなんでもできる～

9月28日（火）に北広島ふるさと夢プロジェクト事業で「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」が行われました。（株）植松電機社長の植松努先生による講演会です。

講演会の中で植松先生は子供たちにわかりやすい言葉で「夢をもつことの素晴らしさ」、「努力を続けることの大切さ」を話してくださいました。この講演会を聞き、子供たちが夢を見つけ、それに向かって努力する人間になってほしいなと強く感じました。画面の向こう側にいる人に向かって手を振るなど、webを通しての講演会も子供たちにとって貴重な体験となりました。最後には画面越しの植松先生と一緒に集合写真を撮りました。



・自分は、つい最近習い事の体操でいろいろなことがあってもう泣いてまでやめようとおもったけど今日話を聞いてもう少し諦めず頑張ろうと思いました。

学校の勉強でも分からないことがあっても頑張ろうと思いました。

協力！苦戦！！ロケット製作

ロケット制作では、友達と協力する姿が多く見られました。植松先生が書かれた説明書を一生懸命に読み込み、制作に取り組みました。ロケットは自分の好きな色を塗り、28色のロケットが出来上がりました。

分からないところは友達にどうしたらいいのか聞きながら全員完成させることができました。「飛ぶかめちゃくちゃ不安」、「俺のだけとばんかったらどうしよ・・・」など、打ち上げに向けて緊張感が漂い続ける教室は少しいつもと違う雰囲気でした。



・ロケットづくりでは、分からないところを友達と一緒に教えあってできました。ロケットの色つけもカラフルにして飛ばすとき、きれいに空に上がりました。

・ロケットを作る時は、紐が絡まったり、パラシュートの位置がなかなか定まらなくて細かいところの作業に苦戦しました。

打ち上げ日和にロケット発射！



10月18日（月）、運動会の予行練習後にロケットの打ち上げを行いました。

秋晴れの青空のもとロケットを打ち上げました。青く澄んだ空に28発のロケットが見事全て打ちあがりました。カウントダウンの掛け声とともに空高く、夢を乗せて飛んでいくロケット。子供たちの夢や願いが叶う未来になるといいなと強く願う瞬間でした。

・美味しいスイカ柄のロケットに、「運動会で赤が勝ちますように！」と、願いをのせて飛ばしました。思ったよりも高くてきれいに飛びました。ロケットを飛ばした後の空には、願いが書かれていました。本番は空に、「赤組優勝！」と書かれています。

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

八重東小学校

講演会

思うは招く～夢があればなんでもできる～

植松努先生による講演会では、「不安の向こうに喜びがある」ということや「失敗はデータだということ」、「努力を続けるためには目標が大切であること」等、多くのことを学ぶことができました。どの児童も真剣に話を聞き、メモをたくさんとり、学んだことを今後の自分の生活にどのように生かすか考えていました。



<児童の感想>

- ・自分が好きなことをずっと続けていこうと思った。
- ・自分がやったことのないことにどんどんチャレンジしていこうと思った。
- ・何事も中途半端でなく、最後までやり切りたいと思った。



願いを込めて！～ロケット製作～

植松努先生による講演会后、ロケットの制作に取りかかりました。児童一人一人が自分の願いを込めて、色とりどりのロケットを作成しました。

<児童の感想>

- ・難しいところ等、友達と協力し合ってロケットを作ることができた。
- ・細かい作業は苦手でしたが、最後まであきらめずに作成することができた。



夢を乗せて～ロケット発射～

ロケット製作後、それぞれの夢を乗せたロケットを八重東小学校グラウンドで発射しました。1～5年生も発射に立ち合いました。無事、全てのロケットが大空へ高く飛びました。それぞれの夢が叶いますように・・・。

<児童の感想>

- ・ロケットが発射する時の迫力に感動しました。夢に向かって、何をするか考え、努力を積み重ねていきたいです。



「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

壬生小学校

講演会

思うは招く～夢があればなんでもできる～

9月28日(火)に北広島町の6年生と植松電機の植松努代表取締役をリモートでつなぎ、植松さんから「思うは招く～夢があれば何でもできる～」という演題で話をさせていただきました。

植松さんの子どもの頃のお話や、働き始めてロケットを作り飛ばすようになるまで、その中での人との出会いなどについて話をさせていただきました。



植松さんのお話を聞いて、「夢はたくさんあっていい。」ということが心に残りました。自分の好きなことや趣味を変だと言われても、あきらめないことが夢につながるようになることを知りました。夢があれば何でもできるということを教えてもらったので、大人になるまでに夢の選択肢を増やしたいと思いました。今便利なものは、どこかで努力や苦労をしてきた人が作ってできているものなので、日々感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。

ロケット製作

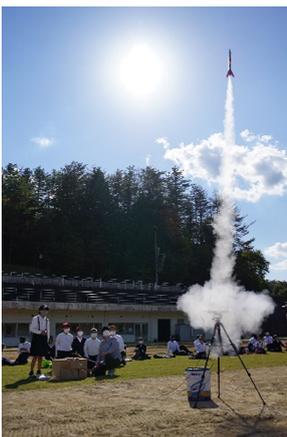
講演会の後、ロケット製作をしました。わからないことがあったら友達に聞いたり、1人で作成するのが難しい時には手伝ってもらったりしながらロケット製作をしました。作成中には、「ここはどうやるの?」と友達に聞いたり「大丈夫? 手伝ってあげようか?」など、自然と声をかけ合いながら作っている様子が見られました。ロケットには、自分の好きな模様を描いたり色を塗ったりし、世界に1つだけの素敵なロケットが完成しました。



ロケットづくりでは、はじめは一人一人で作りましたがわからないところがあったときは友達と助け合い全員作ることができました。ぼくは、やっぱり協力するということが大切だと感じました。色をぬる時も、夢を乗せて打ち上げることをイメージしながらぬりました。

ロケット発射

10月27日(水)、1年生と一緒に千代田運動公園にロケットを飛ばしに行きました。ロケット発射の際には、一年生も一緒に「3・2・1」と大きな声をかけてくれました。ロケットは一人一人の夢を乗せて空高く飛んでいきました。そのスピードの速さに思わず歓声が上がりました。



作る時、パラシュートをたたむのが難しかったので、飛ばした時うまく開くか心配でした。自分の夢も載せロケットが空高く飛んだときはとてもうれしかったです。この活動を通して学級がONE TEAMになれた気がしました。

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

本地小学校

講演会

思うは招く～夢があればなんでもできる～

9月28日（火）に北広島ふるさと夢プロジェクト事業「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」が行われ、植松電機社長の植松努先生による講演を、ZOOMを使ったオンライン形式で聞きました。



植松先生は実体験をもとに、子供達が興味を持って聞けるような工夫をして話してくださいました。「失敗することが怖い」「どうせ自分なんて…とすぐ諦めてしまう」そんな誰しもが持つ気持ちに対して具体的にとても前向きなメッセージを届けて下さり、子供達はテレビ画面に食い入るように見入っていました。質問タイムでの、勇気を出して挙手して質問する子供達の姿と、それに誠実に答えて下さる植松先生がとても印象的でした。



私も「どうせ私は…」や「無駄になるんじゃないか」と考えてしまうことがよくありましたが、植松先生の話聞いてハッとしました。自分の人生を楽しく生きるためには、前向きにあきらめないことが大切なことを改めて感じました。「あきらめない」と「工夫する」が私に今欠けていることだと思いました。人から何と言われようと、植松先生から教えてもらったことを思い出して、「私には可能性がある。何と言われようとあきらめない」という気持ちを大切に、今後の人生が楽しくなるようにしたいと思いました。

みんなで協力して、ロケット製作

10月1日（金）、いよいよロケット作りに挑戦です。みんなロケット作りをとても楽しみにしていました。まずは説明書をしっかり読む。そして、困ったら近くの友達に聞いて解決する。それを繰り返しながら、ほとんど先生に頼ることなく子供達みんなでロケットを完成させました。「世界に1つだけのオリジナルロケット」にするために、デザインにもこだわって作りました。



- ・ロケット作りをしていて、自分が作ったロケットが飛んでくれるのかと思い、すごくうれしかったし、ウキウキな気分でした。みんなすごく凝ってロケットを作っていました。
- ・作っている時、こんな軽くて胴体はキッチンペーパーの芯みたいなのが本当に飛ぶのかなと思いました。完成して考えてみると、軽くないと飛ばないということに気がきました。

最高のロケット発射日とに、全校児童と本地保育所のみんなとカウントダウン

10月15日（金）の大休憩、全校児童と本地保育所のみなさんが見ている中で、いよいよロケットの発射です。校庭の真ん中にセッティングされた発射台に製作したロケットを2基ずつセットし、みんなでカウントダウン。「5、4、3、2、1、発射！」の掛け声とともにスイッチをぐっと押すとロケットはあっという間に青空のかなたへ。ふわふわとパラシュートを開きながら落ちてくる色鮮やかなロケットをめがけてダッシュする6年生。見事にキャッチするたびに、みんなの歓声と拍手で校庭は包まれました。



「ほんとうにこんな小さいのが飛ぶのかな？」と心配でした。ボタンを押すと大きな音で高くまでとんで、ゆっくり落ちてきました。とても安心しました。そして、見ていて楽しかったです。飛ばす6年生だけでなく、他の学年の人や保育所の子もとても笑顔で楽しそうでした。それを見て、さらにうれしくなりました。

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

豊平小学校

講演会

思うは招く～夢があればなんでもできる～

9月28日(火)に北広島ふるさと夢プロジェクト事業「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」が行われ、植松電機社長の植松努先生による講演を聞きました。

植松さんの実体験をもとに、子どもたちに響く話が多くありました。「『ちがう』は『すてき』」をキーワードに、人とは違うことを恐れずに自分を信じて続けることの大切さ、これからの日本に求められる人材は①やったことがないことをやりたがる人②諦めない人③工夫する人だということ、夢を実現する時には経験のある人を探したり先人の本を読んだりすることなど、具体的に「夢があればなんでもできる」方法を話していただきました。



植松先生は、その場にいるように話してくださいましたから、自分も夢をしっかり持つことが出来ました。失敗することは恥ではなく、そこから成長できると言っていたことから、一回の人生を後悔しないように、いろいろなことに挑戦していきたいです。

世界に一つだけのロケット製作

ロケット製作では、説明書を熟読し、分からないところは友だちと話し合っ解決しながら完成させました。部品一つ一つを丁寧に扱い、真剣な表情で組み立てる子どもたちは、小さなロケット工場さながらでした。それでも、発射するまで、本当に飛ぶのか心配だった様子です。一人一人個性の現れる色塗りをを行い、世界に一つだけのロケットが完成しました。



ロケット作りでは、友だちと協力して前より仲が深まったと感じたので、植松さんのおかげだなと思いました。ロケットを自分だけのデザインにして、世界に一つしかないロケットを作ることができたのがうれしかったです。



青空に飛ぶ夢ロケット 発射！

10月7日(木)快晴。青空の下、ロケット発射を行いました。他の学年の児童が見守る中、発射するカウントダウンにも力が入ります。ロケット発射のボタンを押すのが緊張するという子もいました。空高くロケットが飛んだあと、ほっとする表情の子どもたち。それでもすぐにパラシュートを追ってキャッチしに行きました。夢を掴みに行くようで、みんなの夢や希望が掴めるといいなと感じました。



1回目に発射した時、飛びませんでした。2回目の発射でロケットがうまく飛んだあと、パラシュートを追いかけて取れたのでとてもうれしかったです。夢や希望がかないような気がしました。



令和3年度「北広島町ふるさと夢プロジェクト」を振り返って

北広島町内小学校

Ⅰ 今年度の「ふるさと夢プロジェクト」事業を実施しての成果(○)や課題(●)について ※◎はまとめ

【4年生】

- ◎幅広い分野の見学や体験を通して、北広島のよさを学ぶことができました。
- ◎地域の方との触れ合いも有意義でした。
- ◎今後も活動時期・内容、留意点等を積み上げることで、負荷を少なくより効果的に実施できます。

- 「テングシデ群落」「オオアサ電子」「北広島町図書館」「上本家住宅」「きたひろネット」と町内を回り、各見学場所で実際に見学や体験ができ、子供達にとって大変有意義な時間を過ごすことができた。
- 同じ町内でも子供達がまだ訪れたことのない施設を多く巡ることができ、「今度は家族で来たい。」という感想をもった児童もいた。
- 北広島町内(本地：楠苑、豊平：どんぐり庵)の施設にて見学や体験を行い、「きたひろしま」のことをよりよく知ることができ、子ども達にとってよい経験になった。
- 自分たちの身近なところ(北広島町内)に、まだ知らない魅力的なものがあることを知るよききっかけになった。本校では、北広島町を拠点にして活動しているアンプティサッカーチームとの交流と万徳院跡歴史公園での中世の蒸し風呂体験と戦国の庭歴史館等の見学を行った。見学だけでなく体験や交流の活動を取り入れたことで、児童の学習意欲が高まり、児童は楽しくふるさとのおよさについて実感をすることができ、北広島町への理解・関心を深めることができた。夢プロジェクト後に、アフィーレ広島のウォーキングサッカー体験に参加した児童もいた。この事業を通して、地元のイベントなどにも進んで参加しようとする意欲を高めることもできた。
- 芸北民俗芸能保存館・大朝テングシデ群落・オオアサ電子と、文化・自然・産業といった幅広い分野で見学することができ、北広島町について幅広く学習できた。
- 普段何気なく過ごしていると気づけない「ふるさとのおよさ」をたくさん知ることができた。学校に戻ってからは、見学して気付いたことを川柳に表した。
- 見学先を学校で選択できたことはありがたい。
- 社会科や総合的な学習で地域の事について調べていたが、実際に地域の事に詳しい方に話を聞いたり、本物の資料に触れたりする体験は児童にとってとても貴重な時間になった。北広島町のお宝を実感し、児童が「北広島町のおよさを伝えていきたい」と思えるような取組であった
- 各校が実施して学んだことを子供がアウトプットできる機会があるといいと思った。
- 受け入れていただく側としては、各校と個別に調整しないといけないので、手間をかけているのではないかと心配している。
- 見学・体験のできる場所について、町として活動時期・内容、留意点等についてより詳細なリストを作っておけば、各学校で効果的に計画を立て実施に向けての準備が容易にできると考える。
- コロナの感染拡大状況により、当初予定していた見学地を変更した。見学地、日程の調整に苦慮した。
- 見学地の関係上、当日の時間が少し余ってしまいそうであった。事前に時間等の打ち合わせはしていたが、実際のコースなどを再度確認して実施するべきと考えた。
- 日程をぎりぎりに設定したために、時間に遅れることがあった。もう少し余裕をもって見学できるようにしたい。

【5年生】

- ◎登山の経験は子供たちにとって貴重です。達成感が味わえ、北広島への愛着も高まりました。
- ◎ガイドさんに説明していたき、地域の良さを知る機会になりました。ガイドさんに感謝いたします。
- ◎児童の安全確保のために、事前の下見等について町教委や学校と連携が重要です。

- ガイドさんの話を聞きながら楽しく龍頭山に登ることができた。カメラで写真を撮りながら登ったり、持参した望遠鏡を交代しながら使ったりして、子どもたちが声を掛け合いながら活動できた。また、途中にあった滝が大変すばらしく、子どもたちはとても感動していた。芸北の山にはたくさん登っているが、豊平の山に登ることで改めて北広島町の良さを実感することができた。
- 臥竜山という町内の山を調べたり教えてもらったりしたことは児童が「ためになった」などと感想を言っていた。登山という児童にとっては困難なことに挑戦できたことは、「声を掛け合って、みんなで登山ができたのでよかった。」と達成感を感じていた。
- 北広島町の他地域の良さを知ることができた。児童が楽しく登りきるという目標をもち、励まし合いながら頂上まで登りきることもできた。
- 「環境問題や北広島町の風土について考える・地元の仕事を体験する・協働する・仕事量に対する対価をもらう」という活動がとても魅力的でした。本校の5年生だけ別プログラムとして実施させていただきましたが、機会があれば他校でも体験してもらえればと思う。
- 民泊はできなかったが、登山ができたのはよい経験になった。
- 地域にある山に登ったことで、より地域のことを知ることができた。
- 地域の方にガイドをしていただき、地域の宝に対する思いを知る良い機会になった。
- 民泊の代わりに活動として、北広島で一番標高が高い臥竜山に登り、子ども達も達成感を味わうとともに、北広島の自然の雄大さを感じることもできた。
- 町内での民泊体験はできなかったのは残念であったが、「登山することで、自然の雄大さを感じさせ困難を乗り越えた後の達成感を味わわせる」「町内の名山を登山することによって、ふるさとへの愛着を育てる」という目的が達成できる事業となった。緊急事態に備えての対応については、町としていろいろと考えていただき感謝をしている。
- 本校は、豊平の龍頭山を登山したが、登山そのものが初めての児童も多く、ガイドさんや友達に励まされながら最後まで登ることができたことは貴重な経験になった。山頂からの雄大な眺めや全員で登ったという達成感はコロナ禍の中の児童の生活において大変有意義で、かつ心に残る体験活動になった。心も体も成長したように感じる。2名のガイドさんからは、山登りの心構えや自然の素晴らしさなど、様々なことを学ぶことができたようである。ふるさとへの愛着心を育て、困難を克服する強い心を育てる意味で貴重な体験をすることができた。
- 児童は、辛い思いも楽しい思いも味わったが、龍頭山登山の良さを体験し、また登りたいという意欲を持った。ねらいであった「ふるさとに対する愛着を持つ」ことについては、十分に達成できたと言える。
- もう一つのねらいである「絆」についても、作戦の実行を通じて十分に深めることができた。さらに、レジリエンスについても指導することができ、実り多い活動となった。
- 登山の経験がない児童もあり、初めての体験をみんなでできたことで、学級のきずなが深まったと思う。地域の自然のすばらしさも感じることもでき、よい経験ができたと思う。
- 他校の児童と交流することができなかったのが残念だった。
- 最初に予定していた山を、学校の職員が下見をしたところ、山へのアクセス道路に土砂崩れがあることが分かり急遽変更するということがあった。事前の下見の仕方・安全確認について、ガイドさん・町教委・学校で、どのようにしていくのか、確認をきちんと行うことをしていかなければならない。
- 登山は大きく天候に左右され、それにより子ども達の体調も左右されるので、いろいろなことを想定

して準備を入念に行う必要があった。

- 予想以上に急なところが多かったため、休憩をこまめにとると時間に余裕がなくなり、山頂で昼食をとってすぐ下山することになってしまった。休憩時間を含めたタイムスケジュールを細かく立て、時間に余裕をもって活動できるようにする。
- 事前に現地を見ていないので、不安なところもあった。始めは同日他の学校との交流ができる予定だったが、できなかったため交流できるような方法があればいいと思った。
- かなり大きめののこぎりを使用したり、自動薪割り機を使用したりしました。安全について細心の注意を払って実施したが、一歩間違えると大事故につながりかねない活動と言い換えることもできる。事前指導がとても大切だと感じたのと、児童実態によっては若干プログラムを変更するなどの配慮が必要かもしれない。
- 時間にゆとりがあったので、トレッキングガイドさんにもう少し詳しく自然や生物について教えてもらいながら、登山ができると良かった。

【6年生】

◎児童が夢と希望を持てる素晴らしい取組です。

◎6年生の取組は定着しているため、教科等への関連付けもできています。

◎親睦・交流をもねらうのであれば、活動内容に工夫が必要です。

- 植松先生のお話を聞いて、子どもたちは自分の将来について考えたり、失敗を恐れずいろいろなことにチャレンジしようという気持ちをもったりすることができた。ロケット作りも楽しくできた。
- 植松社長が子供頃に体験したこと、感じたことに児童の多くが共感していた。そんな人が人との出会いや夢をもって努力したことで大きなことを成し遂げていることに対し、自分にも何かできるのではないかと感じていた。
- 植松さんの話は、児童にとってとても心に残るものであり、「総合的な学習の時間」に将来の夢について考えるうえでも、とても良い体験ができた。(国語科の「大切にしたい言葉」の学習にも生かすことができた。) 今後の生活にも生かしていけるお話だった。
- 講演を通して、児童が、「自分の夢に」について、また「夢を持ち実現することの素晴らしさ」について考えることができてよかった。
- ロケット飛ばしを地域公開日に実施することで、多くの人にご覧いただけた。また、活動を広く知っていただく良い機会になった。また、下学年も自分もやってみたいという思い(楽しみ)を持った。
- WEBでの講演会、そして学校内でのロケット作り、ロケット発射を行った。他校の6年生と一緒に活動はできなかったが充実した学習ができた。
- 植松先生の講演内容は、児童に夢と希望を持たせたり、人としての生き方を見つめ直させたりするきっかけとなるもので、児童は感銘を受けていた。自身の体験を交えながらテンポよく話していただけたので、児童はとても興味深く集中して話を聞くことができていた。
- ここ2年間、講演会 WEBでの講演会となったが、画面に植松先生の表情等がはっきりと映り臨場感を持って話を聞くことができ、この講演会の趣旨を十分に達成することができている。
- ロケット製作については、班で協力して製作させることで、難しい作業も協力し合って、足並みを揃えて組み立てることができた。児童間の関わりを持たせるのに効果的であった。
- 子供たちに夢と希望の大切さを持たせる有意義な活動と考える。講演とロケット製作・発射という活動内容も精選されている。
- 継続した取組で定着しているため、下の学年の児童たちにとっては楽しみの一つとして定着している。
- オンラインでの開催だったが、植松先生の顔が大きく見えて、児童はとても興味を持ってやっていた。話の内容は、もう何度も聞いているが、毎回感銘を受ける。ぜひ来年度も児童に聞かせたい。

- 本校だけだと人数が少ないので、ロケット制作やロケット飛ばしするときなど、やはり他校と交流したいと思った。(コロナ禍で難しいことは十分わかっているが)
- ロケットの打ち上げについては、本校のグラウンドは一定の広さはあるが、国道・工場・会社等に隣接している。ロケットを飛ばす際、風で道路に落下したり、屋根の上に上がりそうになったりした。安全な発射のことを考えると、一堂に会して講演会を聞き広い千代田運動公園で、ロケットを発射させることがよいと考える。
- zoomがつながるかどうかの確認の進め方(入室したら何か指示があるのかと思い、ずっと待っていた)と、リハーサルの参加者(リハーサルだから子どもも参加すると思い、子どもと一緒に待っていた。)についてはっきりと指示があるとよい。
- 目的の一つでもある「児童間の親睦」という点では、コロナウイルスの影響もあって実施できなかったが、町内の他の学校にはどのような6年生がいるのかをリモートによる交流会等何らかの方法で伝えたい。
- 共同体験や児童間の親睦を図るという目的からいくと、リモートでの講演やロケットづくりでは目的を達成することができず残念であった。

【全体を通して】

- 4・5年生は自校でプログラム内容を工夫することができ、北広島の良さを実感することができた。6年生は毎年同じプログラムだが、卒業学年に植松先生のお話を聞くことは大変有意義なので続けていきたい。
- 学校ごとの活動であったので、プログラムを柔軟に変更することができた。時間をめいっぱい使って活動できたことで、北広島町の良さにどっぷりつかることができた。学校間交流の良さもあるが、学校ごとの活動は運営面でも負担が少ない。
- 学校ごとに単独で行うことにより、事前の打ち合わせや運営面での負担や時間的な拘束が減り、スムーズに夢プロの活動を行うことができた。
- 特別支援学級の児童に応じた学習プログラムを組むことができ、よりよい経験と学びをすることができた。また保護者にとっても新しい出会いがあり充実したものとなった。
- コロナ禍にあっても工夫して活動を実施できたことについて、関係各所にお礼申し上げる。
- 生涯学習課が各所との調整役を担ってくださったことは、現場の負担軽減になり大変ありがたかった。
- 学年に応じて「きたひろしま」のよさを知り体験できる活動が行え、よかった。
- 教育委員会のサポートもあり、コロナ禍にありながら、工夫して活動が行えたと思う。
- どの学年の事業も、学校ごとの実施となったことで、学校間で事前の打ち合わせをする必要もなく、実施に向けての学校職員の負担を減らすことができた。町としての事前の情報提供・準備があり、全体的にスムーズに実施することができた。
- 夢プロとして、4年「町内での見学・体験・交流学习」、5年「町内での民泊・体験学習(実施できなかった場合-登山)」、6年「植松さんの講演会、ロケット製作・発射」を実施することについては、効果的で適切と考える。
- 4年生からの夢プロジェクトの形がおおよそ整った。
- 4年から6年まで系統的に毎年行えていて、大変良いと思う。児童も「6年生になったらロケットを飛ばすんだ」というように、見通しをもっているので、今後も継続して行っていきたい。
- 本校のように小規模の学校においては、「ふるさとの良さを知る」ということだけでなく、他校の児童との交流の機会としても大変よい行事なので、オンラインを効果的に使うなど、同世代の子供たちがお互いに交流する内容をさらに盛り込んでいってはどうかと思う。
- 中学校にどうつなげていくかが課題である。
- 各事業共に、町・町教委の事前の情報提供、準備について、対応していただいた。学校単独で実施す

- る場合、学校職員の負担と安全確保を考えて、今後もより丁寧な対応・準備をしていただきたい。
- 単独で行うことにより、ガイドさんなど受け入れる側の負担が大きかったのではないかと心配される。
 - 夢プロの意義が薄まってきているように思われる。指導者のモチベーションが下がらないように意義を確認していきたい。
 - 予算上仕方ないことと理解できるが、報告書の作成が担当者の負担感につながっているのは否めない。

2 令和4年度を取組をより充実させるための工夫や改善点等について

- 来年度の4年生の「お宝発見ツアー」を計画・実施にあたっては、今年度の活動報告書を参考にするとよい。
- 5年生の「せどやま」体験は、とても充実したプログラムであり、子ども達にとって学びの多い体験であったと思う。人数制限などの制約があるかもしれませんが、ぜひ、来年度も取り入れていただければと思う。
- 民泊の活動内容に登山を含めたプログラムもあってもよい。各校が身近な地域で登山することで新たな発見もあると思う。
例：大朝地域➡熊城山テングシデとの関連 千代田地域➡海見山など早朝の雲海
- 今後、新型コロナウイルス感染症の状況が、どのように推移するか分からない状況である。来年度、特に5年の民泊については、早い時期より準備が必要で時間も要する。学校職員への負担と徒労感を考えて、早め早めに実施の判断を町として行っていただきたい。
- 5年生で民泊を実施する場合、町教委でも考えられているように雨天でも対応できる活動内容にしたい。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のために予定が変更されることが来年度もあり得ると思うので、早めに判断をしていただき、準備の時間を今年度のようにしっかり確保していただけたらと思う。あらかじめ考えておくことも必要かもしれない。
- 学校間連携は感染症対策の視点から、他の教育活動の場で進めることもできるので夢プロの事業は学校単独でできれば運営上も円滑にできると思う。可能な範囲で検討していただきたい。
- 6年生が予定通り千代田に集合することにはメリットとデメリットがあると考え。
- 同じ会場で同じ講演を聞くことの一体感を味わえる。同学年で集まる体験ができる。
- 移動に時間と経費がかかる。講師が遠いと表情が見えない(画面ならよくわかる)。せっかく同じ場所に集まるのだから、学校を超えた交流を仕組みたらなおよい。
- 報告書等は年度当初から内容を示しておき、それにしたがって記録を残すようにする。できる限り途中からの変更や追加を原則しないようにする。

お わ り に

北広島ふるさと夢プロジェクトは、「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したいと思う子どもの育成」を目的としています。

これまで、地域のひと・もの・ことに関する学習や町内企業・施設での体験学習を通じて近隣学校の同学年同士の親睦を図る取組を行い、本町の豊かな自然・歴史・文化を生かして児童生徒一人一人の郷土への理解と愛情を深める学びを広め、ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子供の育成を目指してきました。

しかし、近年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、子供たちの置かれた状況も大変厳しいものとなりました。そのような状況でもどのようにして子供たちの学び機会を守るかを考え、感染防止の観点から小学4年生を対象とした町内お宝発見ツアーは各学校個別の活動とし、小学5年生を対象とした民泊体験は登山体験に変更し、小学6年生を対象にした株式会社植松電機社長の植松努さんによる、「夢と希望をのせてロケットを飛ばそう」講演会はオンラインで実施しました。

新型コロナウイルスによって社会状況は一変し、予測困難な時代へと変わりつつあります。その中で改めて、人と人のつながる社会の必要性を考えるとところです。コロナ禍はこれまでの社会構造に大きな疑問を投げかけ、郷土愛の創造はよりいっそう重要な課題となっています。新しい生活様式のなかでも、地域で活躍する大人たちと様々なかたちで触れ合うことでふるさとへの愛着と誇りを醸成し、将来の地域を支える力につながればと思っています。

今後も、子供たちが予測のつかない社会をたくましく生きぬく力を身につけるための学びを進められるよう、地域・保護者の皆様には引き続きご理解、ご協力を賜りたく存じます。

北 広 島 ふ る さ と 夢 プ ロ ジ ェ ク ト 応 援 隊
副 隊 長 池 田 庄 策
(北 広 島 町 教 育 委 員 会 教 育 長)